

東燃ゼネラル石油株式会社

2007年12月期 中間決算説明会

2007年8月15日
東証アローズ



見通しに関する注意事項

この資料に記載されている当社および当社グループ各社の現在の計画、見通しに関する事項は、日本および世界経済の動向、原油価格、円ドルの為替レート、需給の変動に大きく影響を受ける業界の競争状況などにより影響を受けます。これらの影響により、実際の業績は本資料で記載した見通しとは大きく異なる可能性があることにご留意ください。

■ 事業概況

鈴木 一夫

■ 2007年12月期中間決算および
通期業績予想の修正

W. J. ボガティ

■ 質疑応答

事業概況

鈴木 一夫

東燃ゼネラル石油(株)

代表取締役 副社長

エクソンモービル(有)

取締役

業界を取り巻く状況

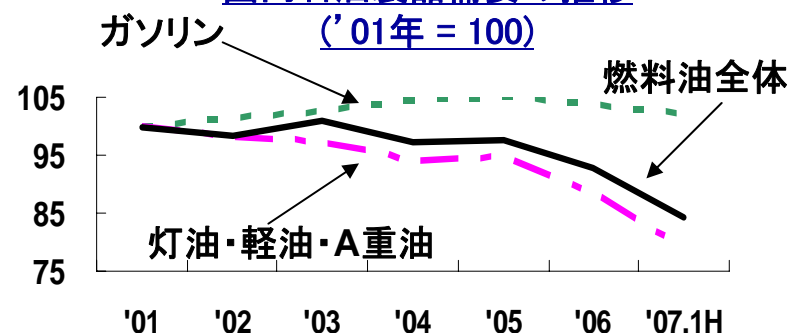
■ 国内精製・販売業界の状況

- » 国内需要の減少
 - 今後も国内需要は減少傾向(政府見通し)
- » 設備過剰
 - 低稼働続く常圧蒸留装置
 - 国際的にみて低い、給油所あたり販売量
- » 原油価格の上昇を十分に反映しない製品市況
(特に、2007年上半期)
- » 製品輸出機会 of 拡大
- » 環境保全対策の負担増加
 - 製品規格の変更
 - 追加的な設備投資
 - 生産コストの上昇

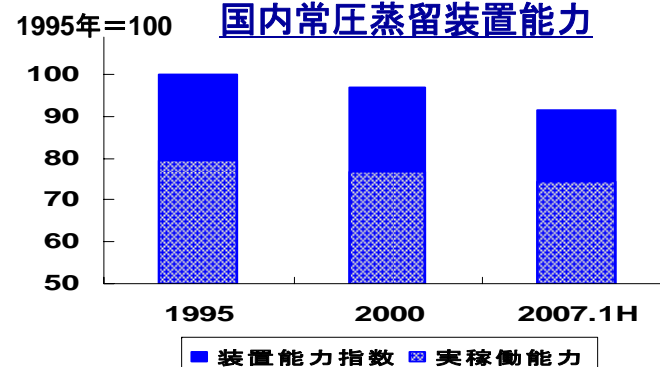
■ 石油化学業界の状況

- » 世界的に旺盛な需要
- » 基礎石油化学製品市況の周期的な変動リスク

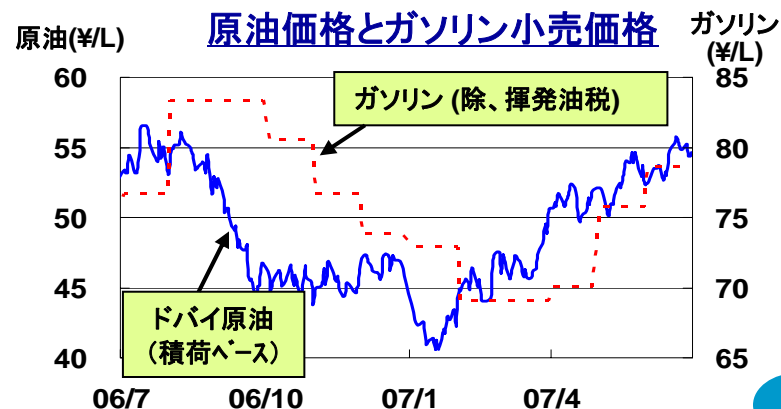
国内石油製品需要の推移



国内常圧蒸留装置能力



原油価格とガソリン小売価格



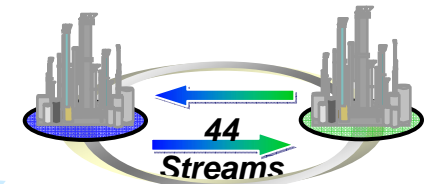
基本戦略

- **各事業部門の競争優位性の強化**
 - » 世界的ネットワークと高い専門性の活用: 技術、操業、経営管理システム、人材
- **事業部門の枠を超えた、統合的アプローチ**
 - » 全事業部門を統合した経済性の追求: 精製・供給部門、販売部門、石油化学部門
 - » エクソンモービル・グループの世界的な供給ネットワークを活用した、原材料ミックスと販売チャネルの最適化
- **コスト競争力の更なる追求**
 - » 製品差別化の困難な市場環境
 - コスト面での効率性が最も重要な要素
- **資産構成の最適化**

統合的アプローチ

- 世界的ネットワークに支えられた各事業部門の高い競争力を、統合的な戦略で組み合わせることによって収益最大化を目指す
- 国内、国外にかかわらず、全ての販売チャネルを活用

精製・供給部門



石油精製 石油化学

販売チャネルのベストミックス

- 国内販売の最適化
- 輸出の拡大

原材料コストの削減

- 原油の重質化
- 割安原油の処理
- 海外エクソンモービルグループ製油所との半製品融通

石油、化学のシナジー拡大

- 組織面の効率化推進
- 原材料の多様化
- 半製品付加価値の最大化

販売部門



コスト、販売戦略の両面から最適選択

- 「エクスプレス」による差別化
- 「エクスプレス」展開の拡大
 - 最新テクノロジーによる利便性向上
 - ドトール、セブン-イレブンとの提携

石油化学部門



ボトルネック解消等による低コストでの能力増強

特殊化学品分野の強化

2007年上半期のトピックス(1)

■ 川崎工場、堺工場における超低硫黄燃料製造装置の完成

- » 和歌山工場は昨年完成
- » H-Oil（重質油脱硫分解装置）の分解モードでの活用

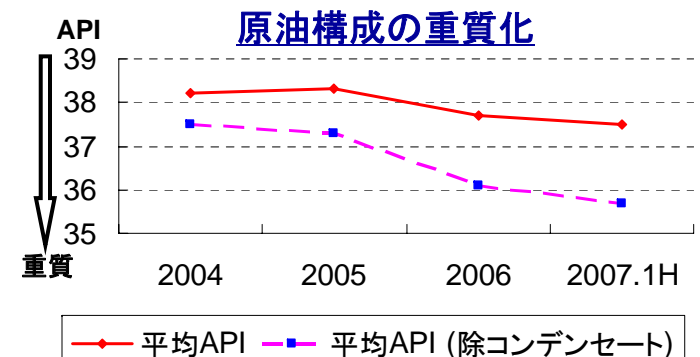
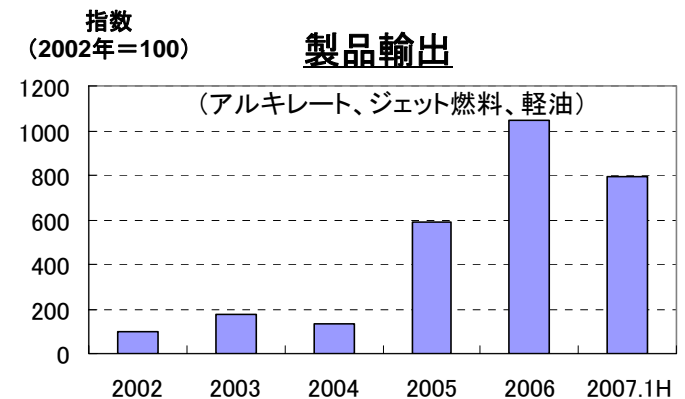


■ 中間製品を中心とした輸出の拡大と、輸出設備の更なる充実

- » 和歌山工場出荷棧橋の大型船対応工事
- » 清水ターミナルからの輸出対応工事
(下期から輸出開始)

■ 処理原油重質化の進展

- » 割安原油の処理拡大
- » コンデンセート(超軽質原料)との組み合わせによる原油重質化



2007年上半期のトピックス(2)

■ 石油と化学のシナジー拡大

- » 石油化学原料多様化の推進
- » 改質ナフサ/芳香族分子の最適活用
- » 石油・化学の組織統合拡大

■ 堺工場における4年連続運転後の大型定期修理を無事故完遂

- » 定期修理期間中に芳香族プラントの能力増強も実施

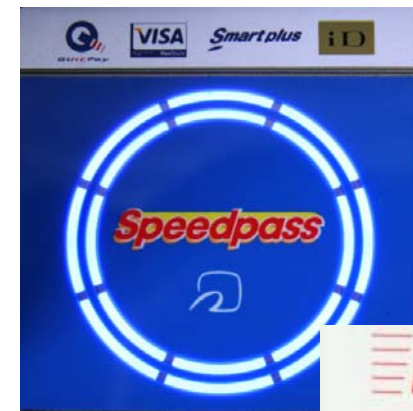
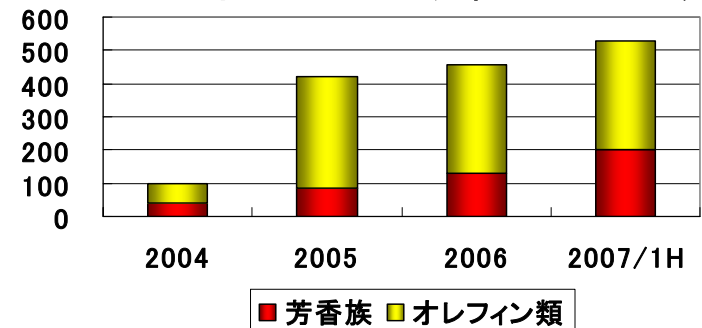
■ 「エクスプレス」における更なる利便性の追求

- » 非接触ICクレジット決済のサービス開始
 - 「スピードパス」に加え、多様な非接触ICクレジット/電子マネーに対応(業界初)
 - クイックペイ、ビザタッチ(スマートプラス)、iD
- » セブン-イレブんとタイアップキャンペーン

■ バイオガソリンのテスト販売開始

2004年 = 100

石油・化学のシナジー効果による収益改善



資産の有効活用と株主還元

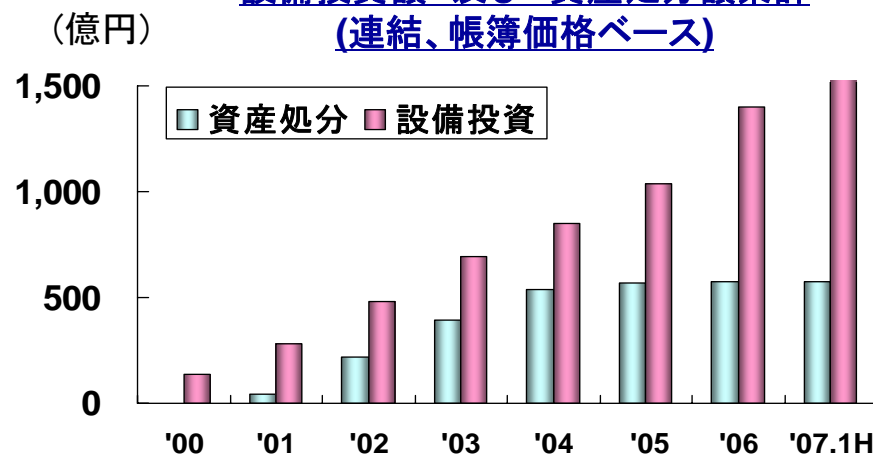
■ 資産構成の最適化

- » 高収益事業、安全・環境対策への投資
- » 非効率資産、売却価値のある資産の処分

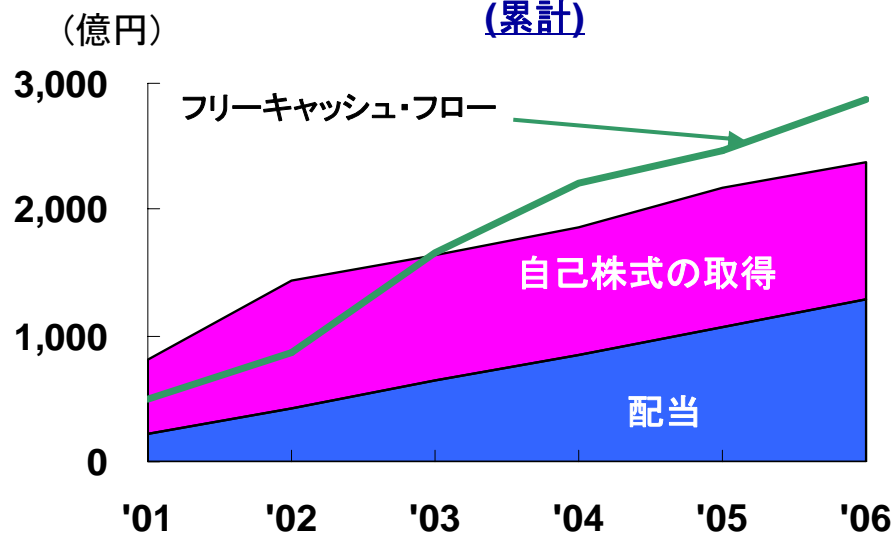
■ 卓越した株主還元

- » 基本原則
 - (1)投資による長期的な株主価値増大 と、
 - (2)株主還元 の最適バランス
 - 事業に当面不必要な資金は株主に還元
- » 過去6年に生み出されたフリーキャッシュ・フローの用途
 - 1,260億円の設備投資
 - 2,380億円の株主還元 (1,280億円の配当と1,100億円の自己株式の取得)
- » 経営環境を慎重に見極め、株主還元のベストミックスとタイミングを冷静に分析

設備投資額 及び 資産処分類累計
(連結、帳簿価格ベース)



フリーキャッシュ・フローと株主還元
(累計)



2007年12月期中間決算 および 通期業績予想の修正

W. J. ボガティ

東燃ゼネラル石油(株)
取締役

エクソンモービル(有)
代表取締役 副社長

決算ハイライト

■ 2007年中間期の営業利益は前年同期比で改善

› 石油部門における当社グロス-marginの低下

- 業界全体の国内石油製品需要が減少
- 原油価格の急速かつ大幅な上昇によるmarginの下落
- 業界他社より約1ヶ月早く原油価格を認識することによるマイナスの影響が前年同期よりも拡大

› 石油化学部門が引き続き連結利益に貢献

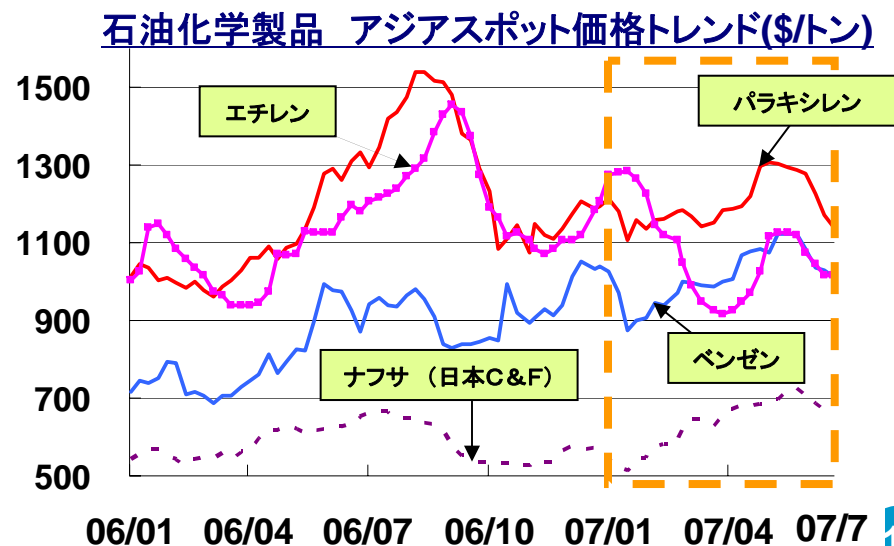
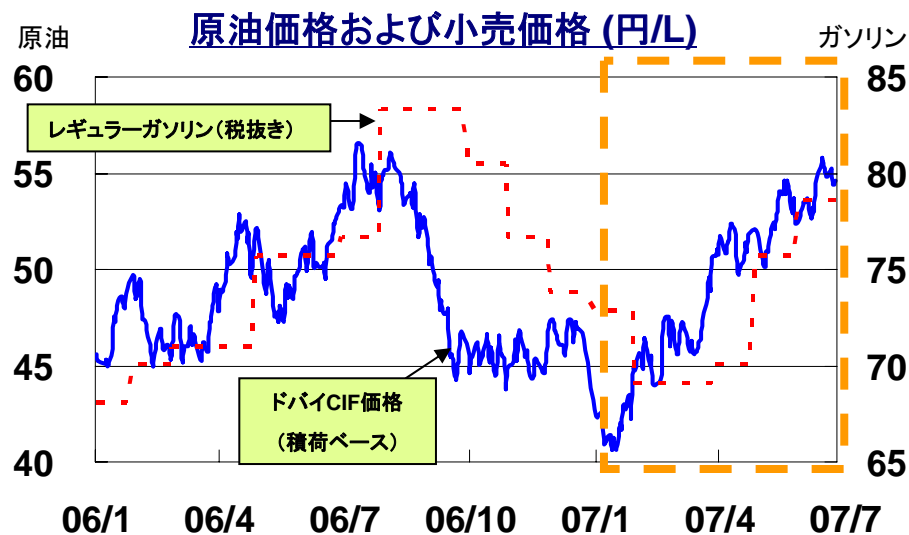
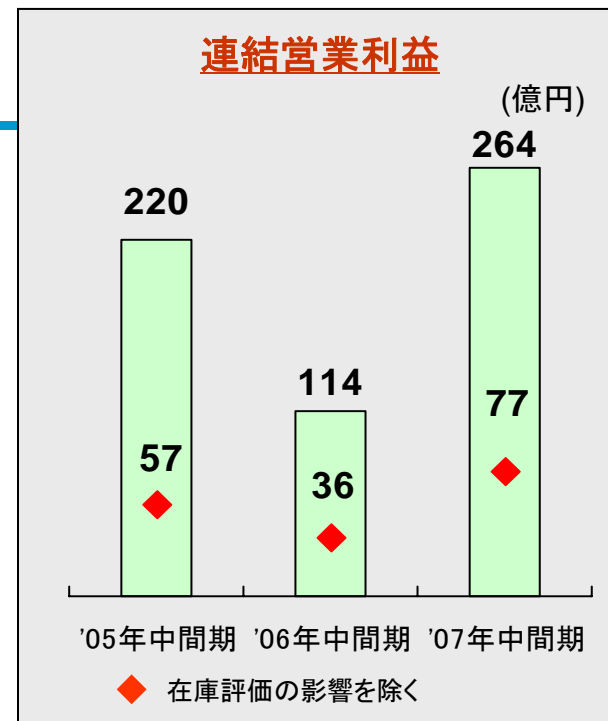
- 石油化学部門として過去最高の中間期営業利益
- 基礎石油化学製品全般の好業績

› 在庫評価は増益要因

■ 東燃ゼネラル石油の競争力強化の施策の進展

- › 操業における柔軟性向上のための設備投資が完了
- › 収益改善に向けた様々な取り組みが進行

■ 健全な財務状態を維持



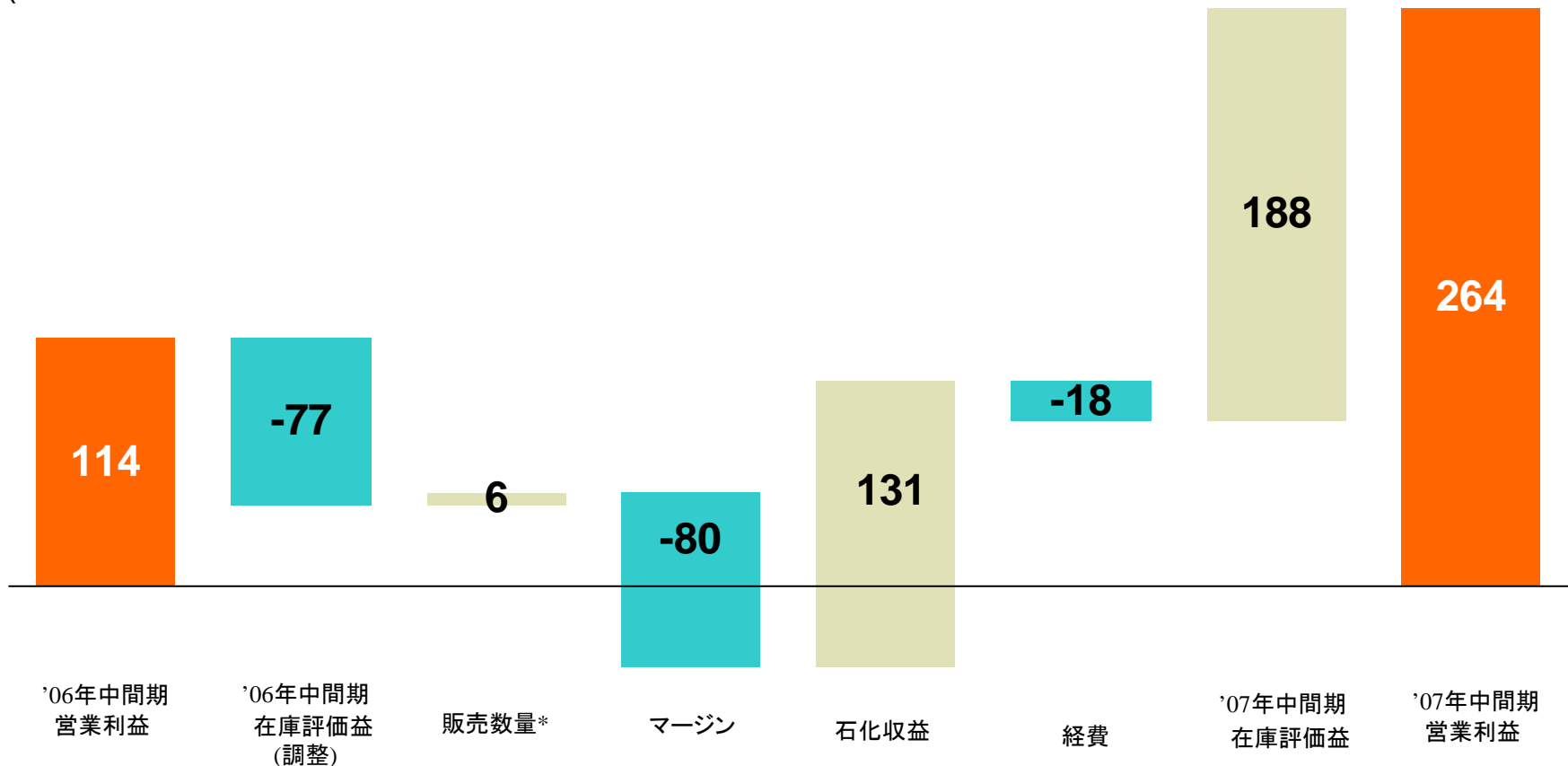
損益計算書 [連結]

(億円)	'06年中間期	'07年中間期	増減
売上高	14,798	14,054	-744
— 営業利益	114	264	151
経常利益	153	284	131
特別損益	-5	-6	0
中間純利益	101	171	70
在庫評価の調整	-77	-188	-111
→ 調整後営業利益	36	77	40
石油部門 他	-183	-266	-83
石油化学部門	219	343	124

営業利益の要因分析 [連結]

['07年中間期実績 vs. '06年中間期実績]

(億円)



石油製品

* 主要製品を基準とする(次ページ参照)

販売数量/稼働率

- 業界全体の需要不振と暖冬のため、前年同期に比べ全ての油種で販売数量が減少
- 輸出の機会を含め、収益性重視の販売に注力
 - » 保税販売を除く、ガソリンと中間留分(ジェット燃料、軽油、A重油)の輸出は前年同期比2倍
- 1-3月期の和歌山工場での製造プラントの定期修理により、芳香族製品の販売が減少
- 4-6月期の3工場(川崎、堺、沖縄)での定期修理のため、前年同期に比べ設備稼働率が低下
 - » 川崎、堺の両工場で超低硫黄燃料製造装置が完成

石油製品 (連結、バーターを除く)		'06年中間期	'07年中間期	増減	業界増減
(千KL)					
日本国内での販売	ガソリン	5,584	5,415	-3.0%	-1.6%
	灯油	1,994	1,915	-4.0%	-15.4%
	軽油	2,104	1,804	-14.3%	-1.2%
	A重油	1,705	1,656	-2.9%	-16.2%
	C重油	1,314	1,084	-17.6%	-19.6%
	主要5油種合計	12,701	11,873	-6.5%	-8.8%
	LPGその他	1,677	1,305	-22.2%	
	小計	14,378	13,179	-8.3%	
	その他*	4,291	4,138	-3.6%	
	総計	18,669	17,317	-7.2%	

*原油、輸出、国内のエクソンモービルグループ内の転送取引などを含む

石油化学製品 (連結)		'06年中間期	'07年中間期	増減
(千トン)				
	オレフィン類他(東燃化学分)	954	956	0.2%
	芳香族(東燃ゼネラル石油分)	364	352	-3.3%
	石油化学製品合計	1,318	1,309	-0.7%

設備稼働率(常圧蒸留装置ベース、単体/連結) 76%/72% 75%/70%

81%

2007年下期 業績予想前提条件

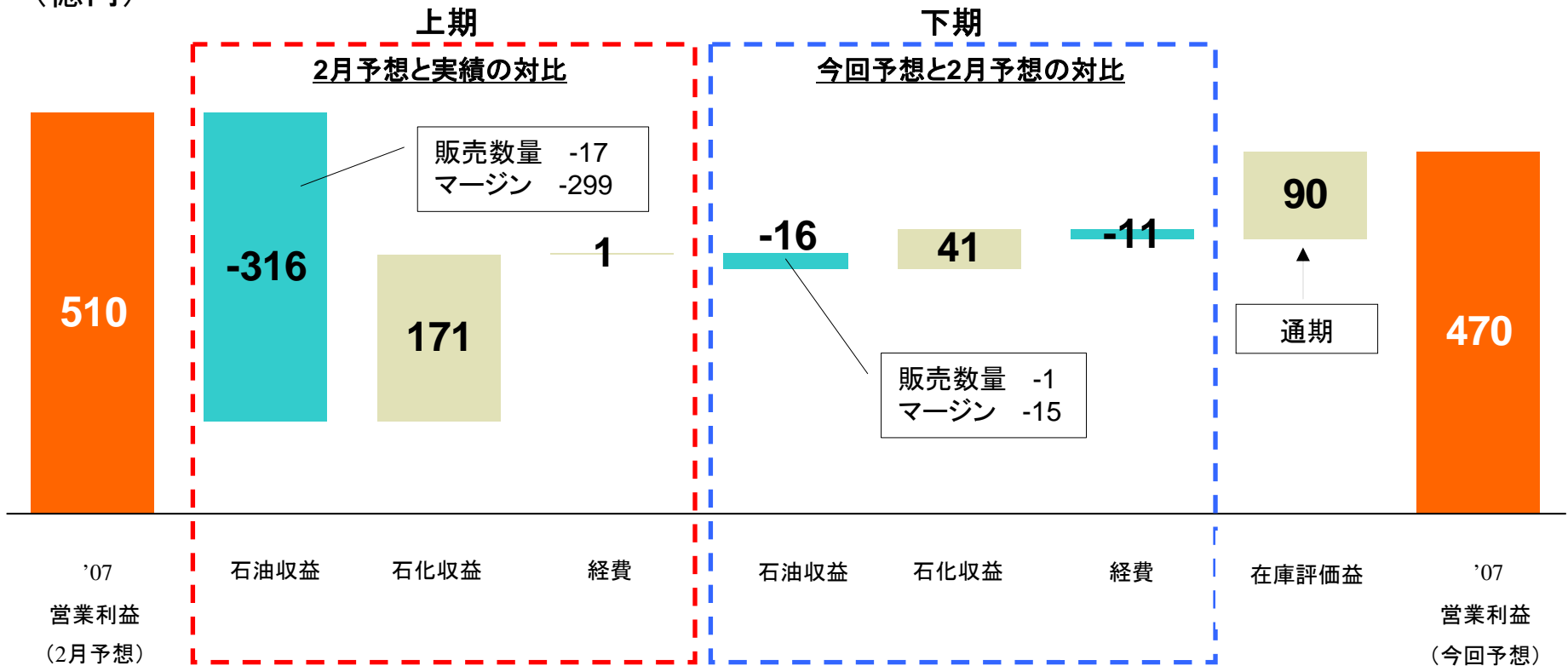
- 燃料油マージン '07年上期実績より改善
- 燃料油販売数量 '07年上期実績より増加
- 石化製品マージン 芳香族、オレフィン類ともに'07年上期実績よりも低い
- 石化製品販売数量 芳香族、オレフィン類ともに'07年上期実績より増加
- 経費 減価償却費の増加にかかわらず、削減を継続
法人税法の改正に伴う減価償却費に関する会計処理方法の変更による影響を勘案したうえで、総経費は計画通り
- 在庫評価方法 後入先出法(LIFO)/低価法を継続
- 在庫評価による影響 期末においては中間期末のおよそ半分の在庫評価益を予想
- 原油価格・為替レート 66.1ドル/バレル(ドバイ), 123.3円/ドル - '07年6月末の値
[売上高の計算のみに使用]

営業利益の要因分析 [連結]

['07年修正予想 vs. '07年2月(前回)予想]

- 2007年通期の営業利益は2月に公表した前回予想と比べて40億円減少
- この変更の主な理由は、原油価格の上昇と業界他社より約1ヶ月早く原油価格を認識することによるマイナスの影響のために、上期の石油製品マージンが予想よりも低かったことによる

(億円)

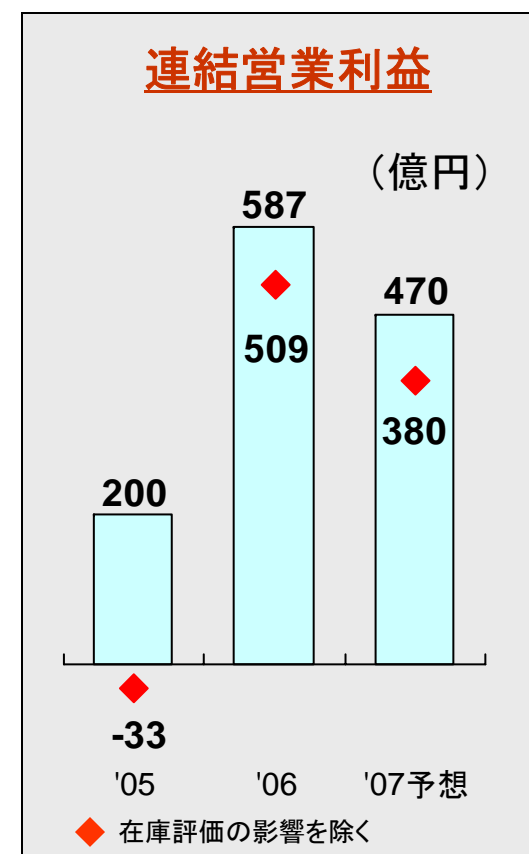


* 主要製品を基準とする(14ページ参照)

業績予想の修正 [連結]

- 2007年通期の調整後営業利益は380億円と予想
- 年末までに大きな原油価格の変動がない前提で、期末の在庫水準を予想し、2007年通期で90億円の後入先出法による在庫評価益を見込む

(億円)	'06	'07 予想	上期実績	下期予想
売上高	30,788	30,900	14,054	16,846
営業利益	587	470	264	206
経常利益	660	490	284	206
特別損益	-33	-20	-6	-14
当期純利益	398	290	171	119
在庫評価の影響	-78	-90	-188	98
調整後営業利益	509	380	77	303
石油部門 他	14	-220	-266	46
石油化学部門	494	600	343	257

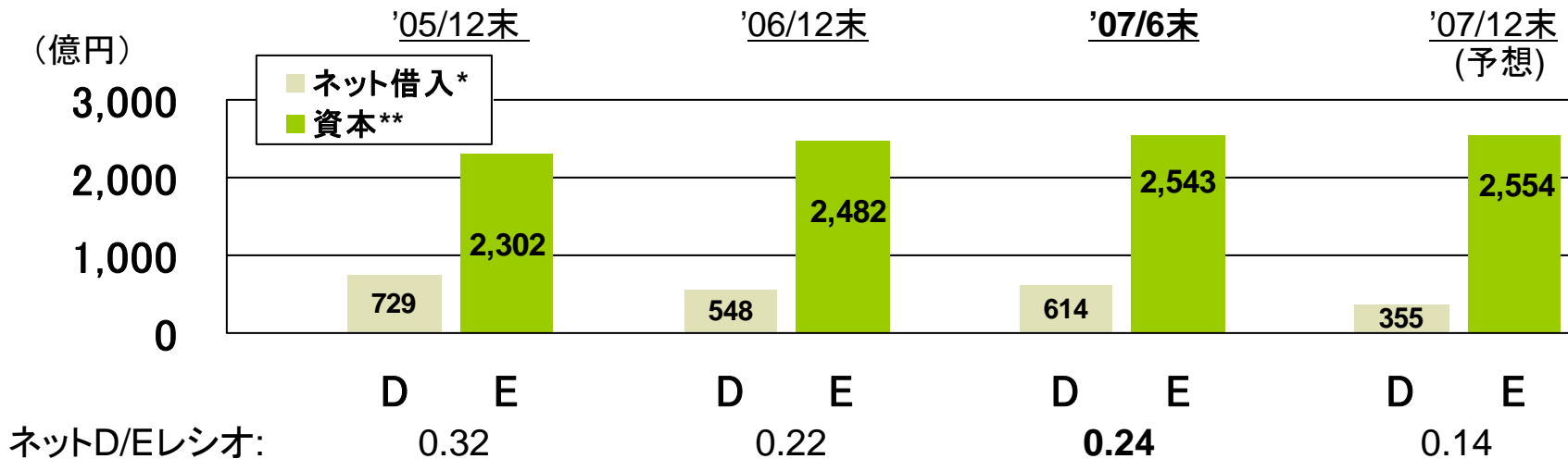
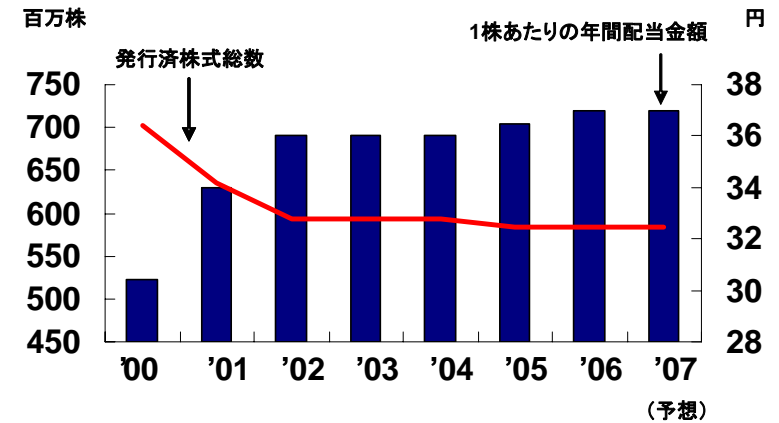


配当政策と2007年配当予想

■ 健全な財務体質と株主還元 に注力

- » 適正な資本構成の堅持
- » 安定した配当水準を維持
- » フリーキャッシュ・フローとその使い道、および純利益の水準を考慮
- » 株主還元の総額を重視
- » 健全なフリーキャッシュ・フローとD/Eレシオの維持
- » 年間配当は、1株当たり37円を予想
- » 業界環境の先行きが不透明な中、資本構成に関する様々な選択肢について注意深く検討

年末の発行済株式総数と1株あたりの年間配当金額



*現預金・貸付金等の影響を除いた借入金、**少数株主持分を除く純資産

補足資料

2007年8月15日

原油価格を1ヶ月早く認識すること、および在庫評価の影響

原油価格を1ヶ月早く認識することによる影響

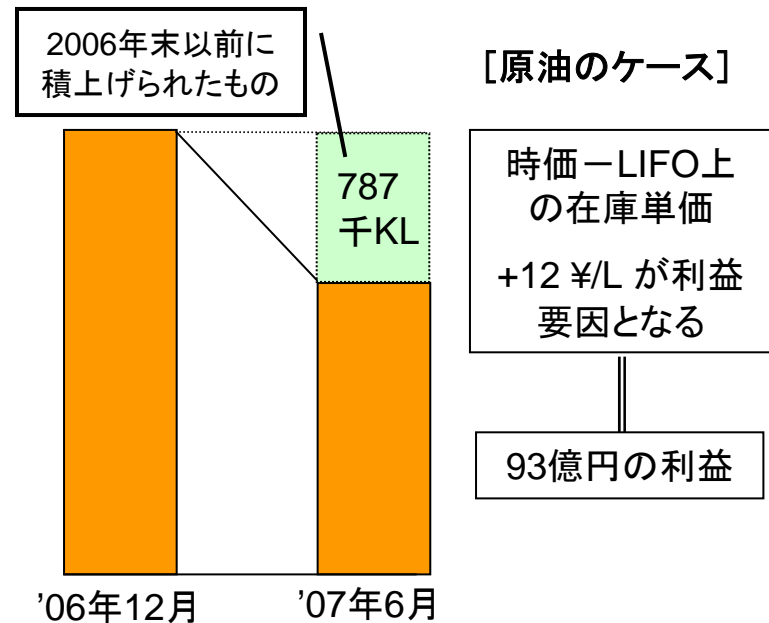
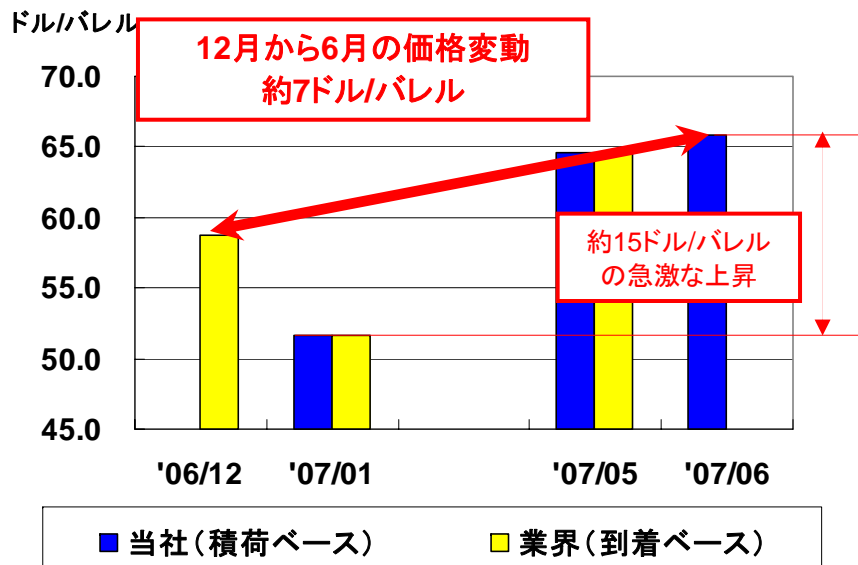
当社は原油調達コストを積荷時点で認識するため、原油価格の変動を業界他社よりも約1ヶ月早く認識する

原油価格を1ヶ月早く認識することの影響はドバイ原油ベースでおよそ170億円と認識される

LIFO(後入先出法)による在庫取り崩しによる利益

営業利益には、主に原油と灯油の在庫取り崩しによる合計188億円の利益が含まれる。

原油(93億円)、灯油およびその他(95億円)



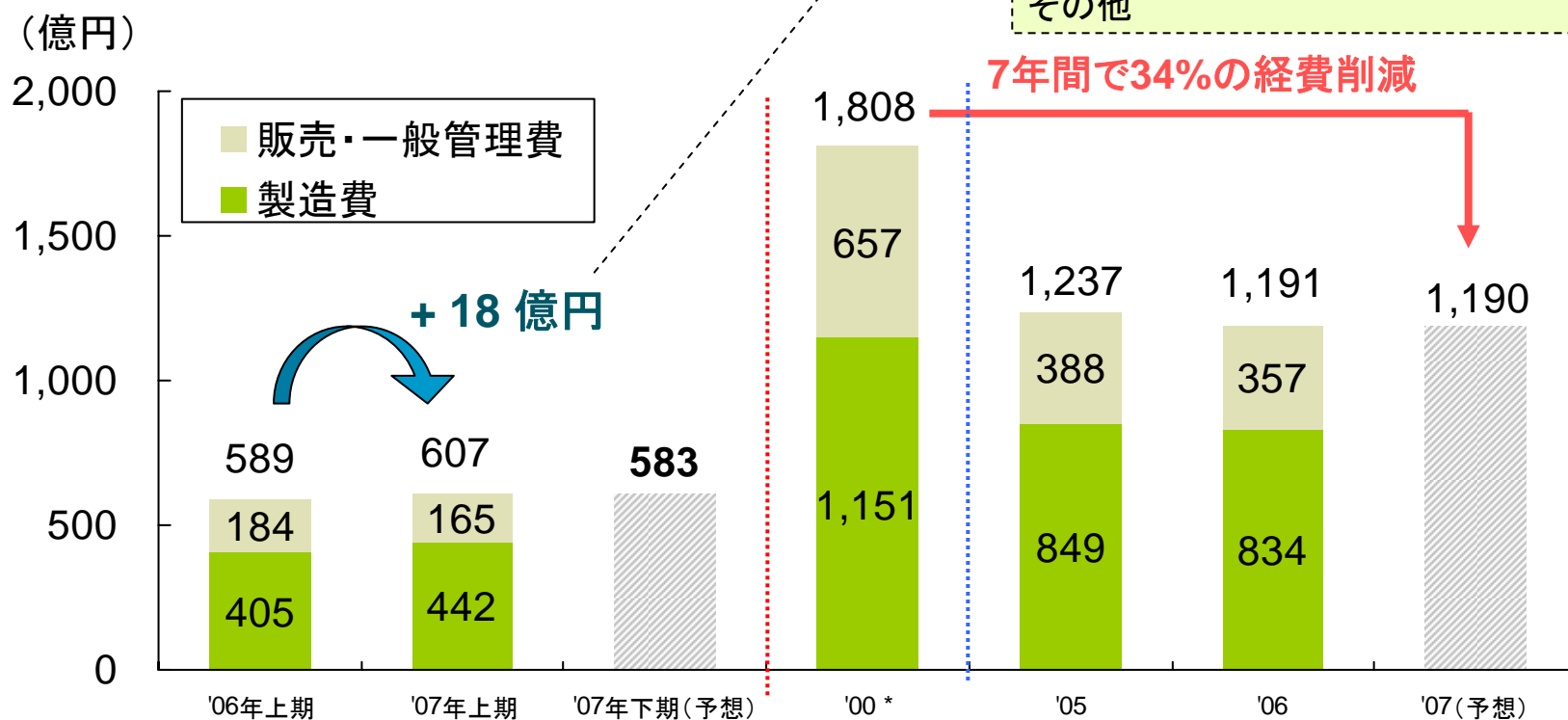
経費 [連結]

■ 経費削減への継続的な取り組みは当社のビジネス上の重点項目

- » 設備の新設に伴う減価償却費の増加
- » 法人税改正に伴う減価償却費に関する会計処理方法の変更

- '07年中間期は2億円
- '07年下期は12億円の計上を予想

退職給付費用(現金収支に影響せず)	-14
償却方法の変更(法人税法の改正)	+2
減価償却費	+14
修繕費	+13
その他	+3



*旧東燃と旧ゼネラル石油の合算(未監査)

キャッシュ・フロー、借入、資本 [連結]

(億円)

営業活動 / 投資活動

税引前中間純利益	279
設備投資額 / 減価償却費	-23
たな卸資産	263
売掛金/買掛金/未払揮発油税等	-413
その他	-61

財務活動

借入金を増(減)	64
配当金の支払額	-108
その他	-2

現預金の増減

'07年中間期

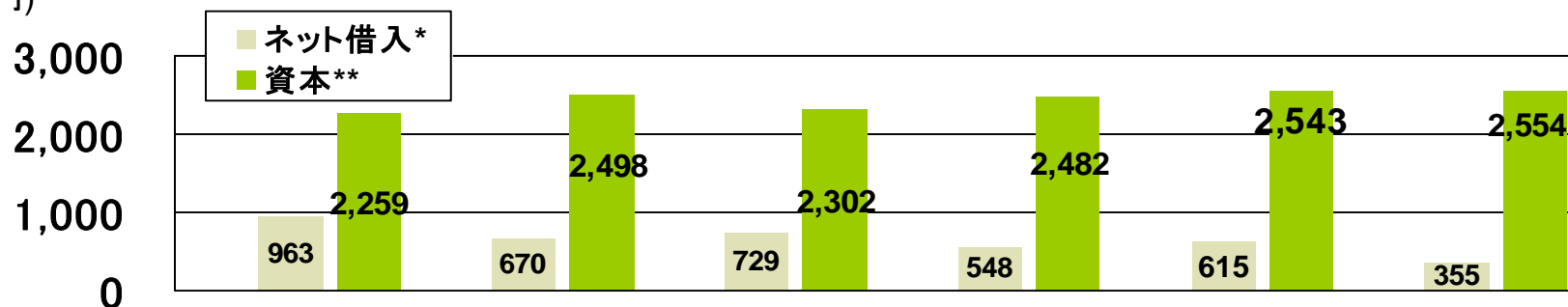
45

税引前中間純利益	279
設備投資額 / 減価償却費	-23
たな卸資産	263
売掛金/買掛金/未払揮発油税等	-413
その他	-61
借入金を増(減)	64
配当金の支払額	-108
その他	-2

- 中間期の一時的な要因(期末が銀行休業日であったことの売掛金への影響)が運転資本に影響し、6月末のネット借入が拡大
- 今年12月期末のネットD/Eレシオの見通しは14%
- 健全な財務状態を維持

(億円)

'03/12末 '04/12末 '05/12末 '06/12末 '07/6末 '07/12末



ネットD/Eレシオ:

期末	D	E	レシオ
'03/12末	963	2,259	0.43
'04/12末	670	2,498	0.27
'05/12末	729	2,302	0.32
'06/12末	548	2,482	0.22
'07/6末	615	2,543	0.24
'07/12末	355	2,554	0.14

*現預金・貸付金等の影響を除いた借入金、**少数株主持分を除く純資産